

第4回ワークショップ° 施設イメージ～基本的な方向性

- 本構想では町民会議における議論・検討内容を実現する具体の施設イメージを以下の通り提示しました。
- 町においては、町民会議の結果と本提案を十分に踏まえるとともに、町の公共施設の現状及び財政状況を考慮しつつ、現実的かつ持続可能な事業の組成・実現をするよう取り組みます。

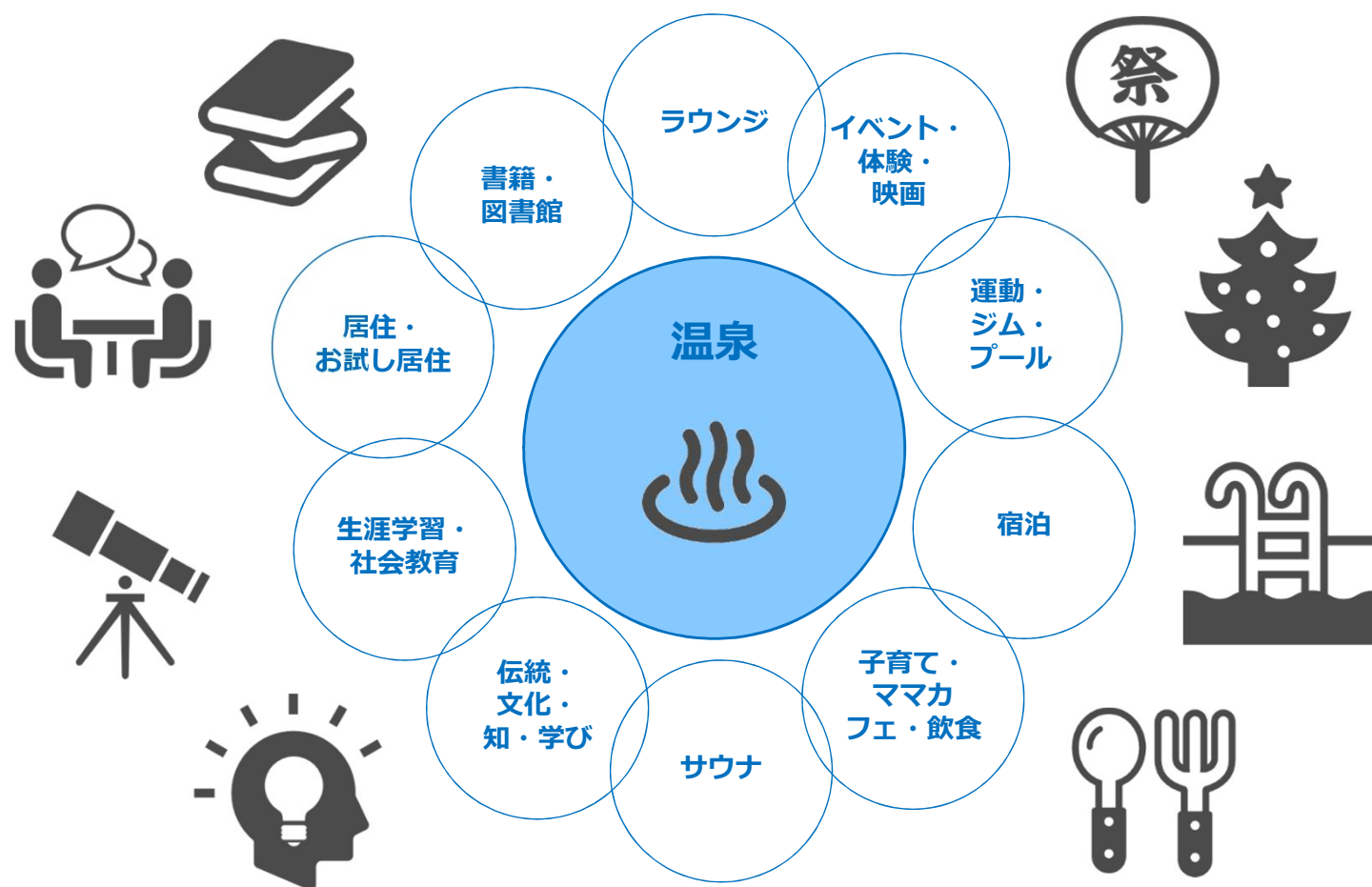
【基本的な方向性・基本理念】

- ① 弟子屈町の若者や子育て世代が弟子屈町に誇りと希望を持ち、弟子屈町に暮らすことが楽しいを思える場を提供する
- ② 弟子屈町の地域資源を最大限に生かすことで、若者や子育て世代に加えて、町民、町外の方、観光客等が「交流」し、かつ弟子屈町を「知る」ことができる場を提供する
- ③ 経済性に十分配慮し、持続可能な運営・経営を行うことで、将来に負担を残さない

中心的な機能として「温泉」を据える

第4回ワークショップ 施設イメージ～機能

- 温浴機能を中心に据えたうえで、若者たちをはじめとした利用者が普段使いでき、楽しみ・憩い・くつろげる様々なスペースとサービスを提供します。ここに挙げる機能は具体の施設として整備される場合や、場所を選ばないサービスとして提供される場合が考えられます。
- 弟子屈町の温泉が人々を惹きつけ、一日過ごせる居場所を作り、コミュニティの醸成や友人との大切な時間、学び・気づきの獲得を実現するとともに、地域の経済活動を活性化し、外貨獲得にも資するよう検討します。



第4回ワークショップ 施設イメージ～具体的なアイデア

- 温泉については、弟子屈町の三つの温泉を集めた「弟子屈温泉オールスター」や、プライバシーに配慮した「裏口温泉」、家族水入らずで楽しめる「家族温泉」、豊かな自然と一体になれる「展望温泉」、外国人観光客に弟子屈町の魅力を伝える「和風温泉」などのアイデアが考えられました。
- 温泉と他の施設の組み合わせについては、温泉と図書館を組み合わせた「温泉図書館」や、温泉とプールを組み合わせる「親水型温泉」、温泉とジムを組み合わせることで「汗をかいた後に温泉に入れるサービス」などが考えられました。
- これらの機能を空間面及びサービス面でどの程度一体化し相乗効果を発揮させるかは今後の検討課題とされました。

※著作権の関係により割愛

第4回ワークショップ 施設イメージ～整備手法

- 前述の施設イメージを具体化するためには、施設規模や予算を明確化する必要があります。町においては、今後、それらの各種条件を慎重に設定し取り進めます。
- またすべての施設を新設する方法だけではなく、既存の公共施設を有効活用することも視野に入れて検討します。町民会議では、営林署跡地に隣接する小学校の活用や、大規模な床面積を有しスポーツ・レクリエーション系の機能が集積している文化センターの活用というアイデアが挙げられました。

泉の湯	
所在地	弟子屈町泉3丁目4-30
建築年	昭和50年度
延床面積	287.55㎡
施設概要	浴場、ポンプ室管理人室
現状	• 利用者が多い（約20,000人／年）、町民利用者が主 • 大人の回数券利用者が半数を占める、こども・若者の利用は少ない • 経営状況が比較的良好



川湯屋内温水プール	
所在地	弟子屈町川湯温泉3丁目2番35号
建築年	昭和55年度
延床面積	1,473.51㎡
施設概要	競泳プール、幼児用プール
現状	• 利用者は約10,000人／年 • 利用者層が限定的かつ約8割が利用料免除で利用している • ランニングコストが大きい • 学校授業で利用（年間数日）



弟子屈町図書館	
所在地	弟子屈町中央2丁目290番地
開設	平成元年4月1日（注）
延床面積	407.50㎡
蔵書冊数	60,603冊（H30年度末）
現状	• 利用者は約9,000人／年 • 規模が小さく狭隘化が著しい • 40代～60代の利用が多い • 民間企業の土地建物を賃借



 どの施設を集約化の対象とするか、新設と既存建物の有効活用をどのように選択するか等について慎重な検討が必要。